



陸奥宗光は、第2次伊藤博文内閣時の外務大臣で、外交の激務により患った体を療養するために、明治27年(1894)に大磯の別荘地を取得し別邸を構えましたが、明治30年(1894)に54歳で亡くなりました。

その後、宗光の次男で、古河市兵衛の養子潤吉が当別邸を譲り受け、古河家の所有となった後、関東大震災で建物が傷んだため、大正14年(1925)に建替えられました。

現存する入母屋の数寄屋造りの家屋は、大正12年(1923)の関東大震災によって一部大破しましたが、翌年に原形を残すように改築されたもので、「聴漁荘」と名付けられています。玄関を入ると取次の間を経て、北側に書生室、南側に2間続きの応接間兼主人室があり、三方畳廊下が廻ります。西側には10帖と8帖の家族用の部屋が続き、家族室の北側には洗面所や浴室等があり、浴室には当時からシャワーが備えられていました。

浴室と化粧室の間の床張りが、隣接する旧大隈重信邸の廊下と同じデザインであるため同じ職人が入っていたことも考えられます。

この建物と西館の間には竹林や果樹園、北東側には稲荷様があり、前面には広い庭園があり、松林、海へと続きます。

(出典：大磯のすまい(大磯町教育委員会)、写真提供：大磯町)

(2018年9月現在)

所在地 大磯町東小磯 285

建物概要 ・種類 主屋

・構造 木造

・形式 和風

・屋根 寄棟

・葺材 棧瓦

・外壁 下見板張

建築面積 110坪

建築年 大正14年(1925年)

交通 JR大磯駅から徒歩15分

※特別な催し以外、非公開